

# 対話から生まれるデザインが 個性的で魅力ある空間をつくる

サンニン株式会社様

作り手のビジョンを明確に打ち出した個性豊かな店舗が増えている。空間プロデュースとは、単に空間をデザインするだけでなく、店舗が演出する世界観を顧客と共に練り上げていくものであり、そこには、従来にはなかった密度の濃いコミュニケーションが必要とされる。

そこで、店舗や住宅の空間プロデュースを手がけるサンニン株式会社では、エプソンの大判インクジェットプリンタ、マックスアートを導入し、顧客とのコミュニケーションに活用。魅力あるデザインを次々に生み出し、顧客からの高い評価を得ている。



## プレゼン資料の表現力向上を目指し、 大判インクジェットプリンタを導入

2007年5月、再開発で注目を集める六本木エリアに、会員制ダイニングがオープンした。国立新美術館にほど近い、ビルの地下1階にひっそりと佇む「NEVY」(ネヴィ)だ。「音楽」を店名の由来に持つ同店は、音楽をコンセプトに、会席料理とお酒が楽しめるやさぎの空間として誕生。空間プロデュースは、サンニン株式会社が担当した。

同社は、世界各国の都市生活者に向けたライフスタイルの創出を目指し、店舗や住宅の空間プロデュース、家具の企画・製作を手がける新鋭のプロダクションである。「NEVY」を担当した同社プロデューサーの野崎正浩氏は、

「空間プロデュースにおいて、最も大切なのはお客様とのコミュニケーションです」と語る。

「プロジェクトの開始にあたり、まずお客様のご要望やパーソナリティを理解するための詳細なヒアリングを実施します。そして、それをもとに3~5案のイメージパースや平面図、家具のアイテムリストなどの資料を作成し、プレゼンに臨みます」(野崎氏)。

プレゼンテーションには、アイデアと企画

力、そして顧客を納得させる表現力が欠かせない。特に、実際に手に取り見てもらう出力物は、非常に大きな意味を持つ。

「プレゼンの段階で、目指す方向性やデザインイメージをどこまで具体的に感じてもらえるかが、最終的なお客様の満足度を大きく左右します。だからこそ、お客様に手渡すプレゼン資料には、空間イメージをリアルに伝える表現力とインパクト、そして空間の全体像を一目で把握できる大きな画角が必要なのです」(野崎氏)。

しかし以前使用していたプリンタは、A3サイズまでしか出力できず、どんなに精巧にパースを作りこんでも、色数が少なく、色味や素材感が精細に再現できなかったため、常にジレ

ンマを感じていたと、野崎氏は言う。

そこで2年前の同社設立の際に、大判プリンタの導入を検討。色再現性に優れ、クオリティの高い出力が可能で大判インクジェットプリンタ、マックスアートを導入した。

## 伝えたいイメージをリアルに再現 プレゼンを支える大判プリント

「NEVY」の空間プロデュースにあたっては、コンセプトワークから参加したため、コミュニケーションには今まで以上に多くの時間を要した。初期段階では、ミニマム、モダン、エスニック、北欧など異なるテイストのデザインを複数提案。様々な角度から見たイメージパースや図面を作成、マックスアートで出力



sunnin producer:  
**Masahiro Nozaki**

**sunnin** サンニン株式会社  
商業店舗や居住空間の空間プロデュースやコンサルティング業務、インテリアプロダクツの企画・デザイン・製造などを手がける。東京、パリ、ミラノ、ロンドンにサテライトオフィスを設置し、オリジナル家具を海外の展示会に出展するなど、国内外で活躍。

し、綿密なコミュニケーションを何度も重ねた。

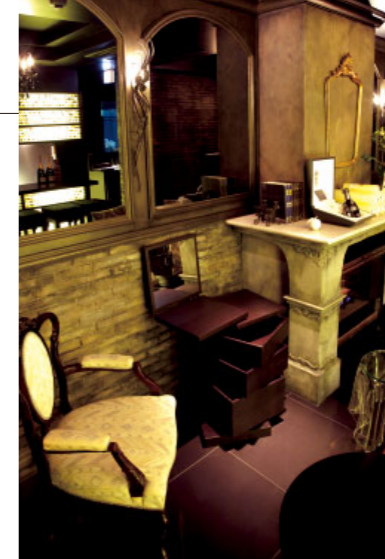
そしてついに、「会員制」「隠れ家」「サプライズ」の3つをキーワードに、19世紀ヨーロッパの貴族の別荘をイメージした現在のデザインに決定。言葉だけでは伝えきれない自分たちの考えやデザインイメージを的確に表現するツールとして、マックスアートは欠かせない存在だったと、野崎氏は当時を振り返る。

これまで数多くの飲食店を立ち上げてきた「NEVY」のCEO兼代表取締役である石阪安行氏は、マックスアートを活用したプレゼンテーションについて高く評価している。「今まで、様々なプレゼンを見てきましたが、あれほど精度の高いプレゼン資料は初めてでした。木やガラス、布の素材感や色味、立体感までがパースに表現されていたので、空間のイメージが細部までリアルに伝わってきましたね。プレゼン資料をもとに素材の一つひとつを検証し、何度も話し合っ作り上げていきましたが、イメージどおりの空間に仕上がりと満足しています」(石阪氏)。

## 高精細な大判プリントが作り出す 密度の濃いコミュニケーション

この春、同社では、3種類の濃度のブラックインクを搭載したマックスアートPX-5800への入れ替えを実施した。微細な色合いや異なる素材の質感などが、今まで以上に精細に再現できるようになり、顧客とのコミュニケーションや業務効率の向上に大きな効果が得られたと言う。

「PX-5800を導入した最大のメリットは、プレゼン資料の表現力向上です。完成後の空間に限りなく近いイメージで出力できるので、デザインイメージをよりスムーズにお客様に理解してもらえるようになり、密度の濃いコミュニケーションが生まれています。その結果、商談のスピードアップや業務効率の向上にもつながっています」(野崎氏)。さらに、PX-5800はA2サイズ対応で迫力あるプレゼン資料が出力できる上、狭いスペースに設置



写真上、中央の「TOKYO dresser」をはじめ、調度品は、同社オリジナルの家具を中心にコーディネート。暖炉は日本の職人に特注したこだわりの逸品。写真右の黄緑色に光るパネルには、バリ島で採取した貝殻を敷き詰めている。

■NEVY  
所在地:東京都港区六本木7-5-9 B1F  
営業時間:18:00~23:00 (restaurant time/月~土)  
23:00~28:00 (bar time/月~金)  
※コース料理 28,000円より(要予約)

できるコンパクトなサイズも気に入っていると、野崎氏は語る。

また同社では、完成した店舗や住居を撮影し、PX-5800で写真用紙に出力したものを、顧客へのサービスや作品集として活用している。「空間の雰囲気や光の加減まで、空間のクオリティをそのままに写真プリントで再現できるのは、PX-5800だからこそですね。プリンタによって、お客様により大きな満足を感じて



いただけるのは、私たちにとって非常に喜ばしいことです。今後もお客様とのコミュニケーションにPX-5800を積極的に活用していきたいですね」(野崎氏)。

作り手のビジョンを顧客と共有し、魅力ある空間を生み出す過程において、イメージを的確に表現できるマックスアートの高精細な大判プリントは、なくてはならない存在となっている。

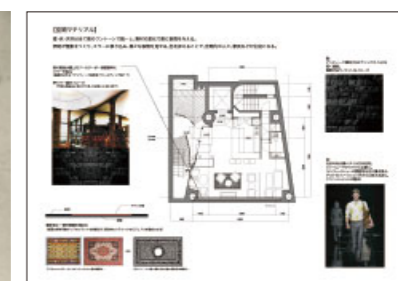


空間の細かいディテールや素材の色、質感までリアルに再現した「NEVY」のプレゼン資料。クラシックなテイストの中にもコンテンツポラリな要素を付加した現在のデザインに決定。

**MAXART K3** 3種類の濃度のブラックインクを採用した高性能顔料インク「PX-P/K3インク」を搭載。デスクにも置ける省スペース設計ながらA2サイズにも対応、ネットワークインターフェイス標準装備。



●価格: ¥198,000 (標準価格/税別) ●インク: 顔料8色 (独立タイプ) ●対応用紙最大サイズ: A2 ●外形寸法 (w) 684 × (D) 376 × (H) 257 (mm) (収納時) ●http://maxart.jp



**EPSON**

プリンタ購入ガイドインフォメーション  
**TEL.050-3155-8100**  
受付時間 9:00~17:30 (月~金)  
※土日、祝日、エプソン指定休日を除く  
URL <http://www.epson.jp/>